



No.166
2012年3月

100周年記念事業のお知らせ

県立長崎図書館は、2012年（平成24年）6月1日に、創立100周年を迎えます。

明治45年、新橋町（現：諏訪町）に開館後、大正4年に現在地へ移転、昭和20年の原爆の被害を受けながらも11月には閲覧業務を再開しました。昭和35年に新館が落成し、昭和43年に4階部分を増築して現在の建物となりました。

この間、直接来館される利用者への閲覧・貸出・参考調査のサービスはもちろん、県内すべての方に県立図書館を利用いただけるよう、回覧文庫や貸出文庫、自動車文庫、移動図書館、協力車などを活用して県内すべての市町村へ出向き資料を届けてきました。

100年の節目を迎えるこれまで以上に皆さまのお役に立てる図書館を目指します。



現在の長崎図書館全景

今後の記急行事(予定)

- 創立100周年記念企画長崎ゆかりの文学展 於：4階郷土資料展示室
 - 第1回 4月24日(火)～6月10日(日) 「長崎の文学碑」
 - 第2回 6月26日(火)～8月19日(日) 「原爆文学展」
 - 第3回 9月4日(火)～12月2日(日) 「斎藤茂吉と長崎」
 - 第4回 12月18日(火)～25年3月30日(土) 「収蔵品展」
- 創立100周年記念企画県立長崎図書館講座 於：2階講堂
 - 第1回 5月26日(土) シンポジウム：「長崎の文学」をテーマに
 - 第2回 9月9日(日) 講演 講師：斎藤由香氏
 - 第3回 11月17日(土) 講演 講師：栗林慧氏
- 創立100周年記念式典
 - 9月30日(日) 於：2階講堂
 - 記念講演：福地茂雄氏（アサヒグループホールディングス社相談役）
- 県立長崎工業高等学校インテリア科生徒作成「旧館模型」展示
 - 時期未定
- 創立100周年記念誌 平成25年1月末刊行

目次

◎ 100周年記念事業のお知らせ P 1
◎ 県公共図書館等協議会表彰団体紹介 P 2
◎ 長崎ゆかりの文学展第4回企画展・第24回図書館講座 P 3
◎ 資料紹介・童話特集 P 4
◎ こども大会 P 4
◎ 県内図書館散歩 P 5
◎ 特別寄稿 P 5
◎ 長崎発読書郵便集第4号 P 6
◎ お知らせ、行事案内 P 6



2012年(平成24年)、県立長崎図書館は創立100周年!

県公共図書館等協議会表彰団体紹介

● 図書ボランティアグループ「やよいの会」

私達、田平読み聞かせ「やよいの会」は、平成14年から、3つの小学校「みなみ」「くすの木」「東風」の名前でそれぞれスタートしました。最初はPTAの保護者が中心でしたが、卒業した子どもの保護者も一緒に活動を続けるようになりました。学校で読む本の話題の中から、地元の図書室充実を目指し、「田平図書室に協力しよう会」を立ち上げました。充実した図書館の見学や、月一回の例会を持ち本の整理する等種々の勉強の機会を持ちました。

その後、3つの小学校のボランティアグループをまとめて、「やよいの里」にちなんで「やよいの会」と名付け一緒に活動をするようになりました。

会員は、現在30名を超えていましたが、若い会員の方々はまだ仕事を持っていますので、朝の読み聞かせだけという方が多いです。しかし、行事やイベントの時には会員で話し合って参加し、打ち合わせや練習と一緒にしながら若い人たちを育てていくように心掛けています。

平戸市では、平成20～22年の3年間、国の支援を受け「子ども支援連絡協議会」を設け、平戸市内の各ボランティアグループが集まって勉強会を持つことができました。この間、色々な面からの素晴らしい講師の先生をお迎えしてたくさん勉強をさせていただきました。最終期には、各グループがその成果を発表するチャンスもいただきました。

ペーパーサート、パネルシアター、ブラックシアター、エプロンシアター、ストーリーテリング、ブックトーク等の言葉や演じ方を教わり、これらを会員の方たちと復習しながら活動に活かしています。

どんな本を読んだらいいか？ 読むことに慣れていないという子ども達に、今、私達は本の楽しさを伝えていかなければと考えています。家族・学校・幼稚園・保育園・地域が力を合わせて、本との出会いのチャンスをつくるお手伝いができたらと思っています。地道に頑張っていきたいと思います。

今回の受賞にあたりまして、図書館関係者の皆様の暖かいお力添えを心より感謝いたします。本当にありがとうございました。



－絵本の森の会－ 今までの活動をふりかえって（雲仙市図書ボランティア）

28年前、長崎市の諫訪神社で子ども達のためにお話し会を行っているグループの方が、私たちの住む南串山町でお話し会を開催してくださいました。そのときにお手伝いをさせてもらったことがとても楽しく、それがきっかけで翌年の昭和57年に「絵本の森の会」を発足し、公民館活動としてスタートしました。

活字離れ、特に子ども達の読書離れが社会問題となっているなか、私たちは「一冊でも多くの絵本やお話の魅力を伝えたい」「絵本を通して大切なことを感じて欲しい」と活動しています。

発足以来27年間、会の活動を続けられたのは、地域の子ども達が「お話の泉」を楽しみにしてくれたことと、文化協会や教育委員会の皆様の支えがありました。お話し会を開催するための準備段階で、テーマを決め、絵本を悩みながら選んだり、ペーパーサートや紙芝居などを制作することも、「お話の泉」に参加してくれる子ども達の笑顔をみる喜びが原動力となっています。

最近の活動として、赤ちゃんと交流できるブックスタートのお手伝い、図書室での「いきいき教室お話し会」、小学校での開き読みへの参加、年2回の読書期間中に行う“楽器とのコラボ”の「お話の泉」（対象：保育園児、小学校、一般）など、地域の中で求めてくださるところで、自分たちができる事をさせていただいている。



そんな私たちの活動のなかで一番思い出深いのが、一昨年、ココロねっこ運動の一環で行われた「口ばのおうじ」の読み聞かせです。ハマユリックスホールの大ホールの舞台に立ち、リュートの生演奏とのコラボで私たち絵本の森のメンバーで語りをさせて頂いたことはめったにできない体験で、大変感動しました。

そして、今回表彰を頂いたことも、私たちの大きな励みになりました。これからもメンバー一人一人の個性を活かし、継続は力なり、の想いで歩んでいきたいです。

授賞にあたり、今まで当会に関わってくださった皆様方に感謝いたします、ありがとうございました。

長崎県立長崎図書館創立100周年記念企画

長崎ゆかりの文学展 第4回企画展

「収蔵品展 県立長崎図書館を訪れた文人たち～平成の芳名録を中心に～」開催中

県立長崎図書館は平成24年6月に創立100周年を迎えます。その歴史を刻む貴重な当館芳名録の中から、一昨年は大正期に本館を訪れた芥川龍之介や斎藤茂吉等を、昨年は昭和期に来館した司馬遼太郎や北原白秋等を紹介してきました。今回の企画展では、平成の芳名録を中心に、本館を訪れた文学者たちの筆跡を通して、長崎の文学の豊かさをお伝えしています。

この企画展に寄せてご本人からご寄贈いただいた直筆資料には、林京子氏の芥川賞受賞作「祭りの場」や直木賞作家・白石一文氏の最新作「幻影の星」の冒頭部分、吉村昭・津村節子ご夫妻の直筆色紙（吉村は複製）などがあり、初公開資料10点を含む100点余りを展示しています。

企画展初日の1月12日には、午後に2回、20分程度の展示説明会を行い、吉村昭の郷里である東京都荒川区が作成した吉村昭オリジナル葉（非売品・4枚セット）を参加者全員に進呈しました。

直木賞作家・白石一郎氏、県民栄誉賞を受賞された市川森一氏やH氏賞受賞詩人の高塚かず子氏、芥川賞作家・青來有一氏、詩人の田中俊廣氏、文芸評論家の島内景二氏についても、直筆資料や著書、新聞記事などとあわせて展示紹介しています。会期は4月8日（日）までです。この機会にご来館いただき、本館が収蔵する新旧の「お宝」をぜひご覧ください。



展示直筆資料「祭りの場」

第24回 県立長崎図書館講座 対談「長崎与中国～物語からたどる交流史～」を開催しました。

昨秋、14年ぶりに復活した上海航路は、長崎と中国の交流の歴史を改めて考える契機ともなりました。当館でも、昨年11月12日（土）に、長崎大学名誉教授で長崎中国交流史協会会长の若木太一氏と、長崎中国交流史協会専務理事で孔子廟・中国歴代博物館専務理事の陳東華氏による対談を開催しました。

8世紀「万葉集」の時代から、東アジアの海は、遣唐使や遣新羅使をはじめ、中国大陆と日本をつなぐ人とモノの架け橋であり、文化の道でもありました。阿部仲麻呂のように、帰国を果たせないまま、異国で生涯を終えた人たちがいた一方、中国の仏典や書籍を持ち帰り、日本に優れた大陸文化を伝えた人たちもたくさんいました。ブック・ロードとも呼べる、長崎と中国を結ぶ海上の道とその交流の歴史を、近世から近代を中心いて物語を通して考えました。

受講者からは、「中国と日本は古代から影響し合ってきたことは知っていましたが、今日のお話を伺って『影響』というよりもっと深く『混じり合って』きた歴史、そしてその歴史が今日まで生き続いていることが分かりました。」等の感想が寄せられ、大変好評でした。



資料紹介

「どんな歯医者さん？こんな歯医者さん」



誰でも虫歯にはなりたくないかもしれません。でも虫歯は治さなくてはなりません。もし、ものすごく上手でしかも人間の歯医者さんではなかったら？逆に患者さんがとんでもない生き物だったら？今回はそんな歯医者さんと患者さんのお話を紹介します。

① 「歯いしゃのチュー先生」

(ウイリアム・スタイル 作・絵 評論社)

チュー先生は腕利きのねずみの歯医者さんで評判も上々です。でもやってきた患者はキツネ。最初は断ったチュー先生でしたが痛くてたまないと泣くキツネの話を聞いて治療することに。でもやっぱりキツネ。先生が口の中に入ると食べたくて食べなくてたまりません。危険を感じた先生が考えた治療法とは？（姉妹編に「ねずみの歯いしゃさんアフリカへいく」があります。こちらはねずみのソト先生がゾウの歯を治そうと奮闘します。）



② 「わにさんどきっはいしゃさんどきっ」

(五味太郎 作・絵 偕成社)

歯医者さんは人間ですが患者さんがワニさんです。どちらも相手を見てびっくり。「でもがんばるぞ」と治療と我慢に必死になります。しかし歯医者さんの機械が歯の神経に触れるのとワニさんの我慢の限界が同時に来たとき……。



③ 「ワニのアリストール」

(イザベル・シャルリー 絵 フロランス・グラジア 文 アシェット婦人画報社)
※品切れ重版未定のため購入はできません

ワニのアリストールはめがね落として大好物のウシのかわり鉄のベンチをかじってしまいました。おかげで歯が全部なくなってしまったアリストールは友だちでねずみのルーシーに相談にいきます。さてルーシーはどうしたでしょう。



以上ハラハラ、ドキドキ、ホノボノそしてコワゴワの絵本4作品はこども室でおたずねください。
「さあ、食べたら歯みがき歯みがき！」

④ 「はいしゃさん こわいの」

(たけだみほ え・ぶん 偕成社)

そうです歯医者さんには行きたくないのです。ふんいきがイヤなのです。待ってる時間もたまりません。そして歯を削る機械の音。治療室からでてきて泣いている男の子。歯医者さんはこわいのです！そしてとうとう自分の番。おサルのぼうやはこの試練をどうやって乗り越えるでしょうか。



こども大会

たくさんのご参加ありがとうございました!!

平成23年12月10日(土)に「こども大会」を開催しました。今年度は、初めて対象年齢を幼児に限定し、小さな子どもさんたちにたくさん集まっていました。大型絵本の読み聞かせや紙芝居、ブラックライトを使ったパネルシアター、人形劇などを行いましたが、中でも、人形劇「おおきなかぶ」では、会場の子どもたちの元気な歌や応援のおかげで、大きな「かぶ」をぬくことができ、会場が一つになったようでした。

また、会場の外には、しかけ絵本を展示し、親子で見たり触ったりして楽しんでいただきました。

平成24年度も同じ時期に開催を予定しています。
次回もたくさんのご参加をお待ちしています。

こどもたいかいプログラム

- えほん 「えらいえらい！」
- かみしばい 「みんなでぽん！」
- パネルシアター 「からかさのおよめさん」
- にんぎょうげき 「おおきなかぶ」



シリーズ

県内図書館散歩⑥

一平戸市 平戸図書館一

平戸図書館は、創設80年を迎え、昭和52年から北部公民館との複合施設の3階にあります。施設の老朽化等の問題もあり、現在、新しい複合施設の建設に向けて協議がなされているところです。

昨年10月には、読書推進を図るため「だいすき♥平戸図書館♥図書館フェスティバル」を実施し、今年3月18日には、図書館モニターツアー（佐々町立図書館・諫早市立たらみ図書館）を企画しております。

新規利用者層拡大に向け、市役所窓口等への月1回の配本活動、赤ちゃん読み聞かせ会など特に力を入れて実施しております。利用しやすい施設建設を目指し、利用者の皆様と共に心のよりどころとなれるような図書館・生涯学習施設を提供できるよう目指していきたいと思います。



平戸市役所市民課配本コーナー



図書館フェスティバル

特別寄稿

明日の親になる人へ

岡田尊司著【愛着障害～子ども時代を引きずる人々～】

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● 長崎女子短期大学 教授 浦川末子 氏



最近、子育て支援の方々とお話をすると機会が多い。支援者の方々は一生懸命居心地の良い場所になるようになると、入口から出口に至るまできめ細やかで細心の気遣いをしながら利用者を待っておられる。一方、利用者の方々は、インターネットで様々な支援センターを検索しうまく利用しておられる。とてもいいことだと思う。ところが、不思議なことに、あの方とはあちこちでお会いするけど会話をしたことはありませんという。「どうして仲良くなれないの」と聞くと、「初対面の人に声をかけるのがおっくうで」と返事が返ってくる。

今、若者たちの中には、先に声をかけるのをためらう人が増えてきたようだ。

私は、子育て中の利用者が、お互いに声を掛け合い、顔見知りになり、気心がわかつて、支え合う楽しみができるようになって欲しいと願っているが、誰かがお世話をしてやらないと難しいようである。その根っこにある心配や不安は一体何だろうと日々考

ていたところに、精神科の先生から標記の本を頂いた。冒頭にこう書いてある。

「安定した愛着スタイルを持つことができた人は、対人関係においても、仕事においても、高い適応力を示す。人とうまくやっていくだけでなく、深い信頼関係を築き、どんな相手に対してもきちんと自分を主張し、同時に不要な衝突や孤立を避けることができる。困ったときは助けを求め、自分の身を守ることで、ストレスからうつになることも少ない。人に受け入れられ、人を受け入れることで成功のチャンスをつかみ、それを発展させていきやすい。」

何と、「愛着こそ幸福の根源であり、人格の土台だ」と言っているのだ。「なぜ、人に気ばかり使うのか」「なぜ、自分をさらけ出すのに臆病になってしまうのか」こういった「なぜ」に適切に応え、克服していくヒントがこの書に満載である。明日の親になる人、就職を決めた人、仲間が欲しい若者たちには是非読んでいただき、幸福な社会人生活を楽しんでいただきたい。

長崎発読書郵便集 第4号

「読書郵便」とは

友だちや大切な人に読んでもらいたい本を、郵便ハガキ形式で紹介したものです。

県立長崎図書館では、県内市町立図書館等と協力し、子どもの読書活動の推進のため、「子ども読書の日（4月23日）」や「こども読書週間（4月23日～5月12日）」における各種啓発活動の一助となるよう、平成20年から本冊子『長崎発読書郵便集～この感動をあなたへ伝えたい』を発行し、各地域の子ども読書活動推進イベントなどで「本との出会い」の契機として活用していただいているところです。

第4号となる今年度も、県内市町立図書館等のご協力をいただき、県内各地域から2,434点に及ぶ子どもたちのすばらしい作品を募ることができました。

「どの本を読もうかなあ」と迷ったときは、ぜひこの「長崎発読書郵便集 第4号」をご利用ください。

~長崎発読書郵便集 第4号~

この感動を あなたへ 伝えたい

長崎県立長崎図書館・長崎県公共図書館等協議会

NAGASAKI Library

【読書郵便集】とは、友だちや大切な人に読んでもらいたい本を、郵便はがき形式で紹介したものです。

鹿児島市立図書館等と協力し、子どもの読書活動推進のため、「子ども読書の日（4月23日）」や「こども読書週間（4月23日～5月12日）」における各種啓発活動の一助となるべく、「長崎発読書郵便集～この感動をあなたへ伝えたい～」を発刊し、県内の子ども読書活動推進イベント等で活用していただいているところです。過去に作成しました第1号～第3号ともに好評をいただいているおり、本館のホームページからご覧いただけます。

本館ホームページアドレス <http://www.lib.pref.nagasaki.jp/news/index.html>

【第1号】 第2号 第3号

2012年(平成24年)、県立長崎図書館は創立100周年!

過去に作成いたしました第1号から第3号とともに好評をいただいており、本館のホームページからもご覧になりますので、併せてご活用ください。(ホームページアドレス:<http://www.lib.pref.nagasaki.jp/>)



県立長崎図書館からのお願い

卒業・入学・異動の季節です。

借りたままになっている本はありますか？

万一、返却されていない本がありましたら、ご返却をお願いいたします。



※玄関横の返却ポスト(24時間対応)への返却も可能です。図書館の本は県民共有の財産です。

また、住所等の連絡先の変更があった方は、県立長崎図書館までお知らせください。

催し物のご案内

※創立100周年記念事業

平成24年度「長崎ゆかりの文学展」 (第1回企画展)

場所：県立長崎図書館4階郷土資料展示室
内容：「長崎の文学碑～万葉から現代まで～」
※第25回(平成24年度第1回)図書館講座と連動
期間：平成24年4月24日(火)～6月10日(日)
時間：9:30～17:00(ただし休館日を除く)

第25回(平成24年度第1回) 県立長崎図書館講座

日時：平成24年5月26日(土) 13:30～15:30
場所：県立長崎図書館2階講堂
内容：シンポジウム「長崎の文学」をテーマとする
講師：県内高校生数名と県立高校国語科教諭
※長崎ゆかりの文学展 第1回企画展との連携
※全国高文祭文芸部と連携